

令和7年度東部地区道徳教育研究協議会

松伏町立松伏中学校

【A部会（3学年）】

主 題 名 周りの人々への感謝
内容項目 B 思いやり、感謝
教 材 名 「忘れていたこと」
(彩の国の道徳「自分を見つめて」)



授業の様子



協議会の様子

1 各グループからの発表（ワークショップ型分科会）

- 導入で活用した「アンケート」はイメージを膨らませる上でよかった。自分事としてさらに、問題意識を高めるために、教師の補助発問等工夫していく必要がある。
- ICTを活用することで、短時間で考えを共有することができていた。また、全員が話し合いに参加することができ、記録として残すことができる。
- ICTで視覚化した意見を活用し、理由を問う等話し合いを深めていくとよい。
- ねらいに迫る上で、何がゴールかを明確にしていくとよい。自分との関わりで考える時間を十分に確保し、生徒のつぶやきを生かした話し合いとしていく。

2 指導講評

- 「感謝の気持ちを素直に表す態度」について、一貫して生徒観や指導観を書いており、指導案を学習指導要領解説の言葉を踏まえて記述していることが分かる。
- 中学校の学習指導要領解説になぜ小学校の記述があるのかを考えてほしい。小学校と中学校での学びの違いを押さえ、中学校では何を考えるのかを明確にする。
- 指導案で最も大切なのは「ねらい」である。必ず学習指導要領解説を確認してほしい。その指導観は何に基づいているのか。教師の人生観だけでは視野が狭くはないか。違う視点はないか。触れない価値観があるのではないか。様々な視点で学習指導要領解説を熟読することで、指導方法の選択や発問のアイデアにつながる。
- 発問の大切さの度合を考える。中心となる発問は、時間をかけて話し合ったり、ワークシートを活用して書く活動を取り入れたりする。
- 自己を見つめる機会がどれくらいあるか。人ごとになっていないか。感想を書かせて終わりでは不足である。自分を見つめられるよう、教師の問いかけが大切である。

